

私がサービス管理責任者を務める就労移行支援事業所「アフレッシュいわき」は、障がいのある方々の「働きたい」との希望をかなえるためにさまざまな支援に取り組んでいます。今回は、事業所のある利用者にもスポットを当て、特別ですてきなストーリーを紹介いたします。

精神保健福祉手帳を持つ三十代の男性Aさんは、県外の大学を卒業し一度は就職しましたが、短期間に複数の会社で退職を繰り返していました。本県に帰郷後も精神的に不安定な状態が続いたということでした。アフレッシュいわきには福祉機関の勧めで見学に訪れ、体験を通じて利用開始となりました。

Aさんは他者との関わりを重視しすぎる性格が災いしてか、もめ事を中心になってしまう事もありましたが、基本的には人懐っこい性格の真面目な方です。日々の訓練で着実にスキルアップ

民報 サロン

プし、県内企業の障がい者枠で採用が決まりました。

そして、ここからアフレッシュいわきの「定着支援サービス」の始まりです。私たちの仕事は、利用者さんに就職してもらったらそれで終わり、というわけではありません。できるだけ同じ職場で長く働いてもらえるように

でしょうか、すぐにアフレッシュいわきに相談がありました。

早速、支援員がAさんに連絡して明日は会社の駐車場で待っているから一緒に出勤しましょう」と声をかけました。その約束通りAさんは無事会社

に転職されました。現在もAさんからは引き続き公私にわたる相談が度々寄せられます。その度に支援員も一緒に悩み、一緒に喜びを感じながら助言しています。気が付けばAさんの様子も落ち着き、勤務も二年目に入りました。現在も欠勤することなく安定した勤務を続けています。

先日、職場を訪問してAさんの勤務中の晴れ姿を見学してきました。Aさんからは「アフレッシュいわきの方が近くで見ていると緊張します」と苦笑いされてしまったため、早々に帰りました。アフレッシュいわきの支援員にとって一番の楽しみは、就職された利用者さんが職場で奮闘されている姿を見ることです。その姿を見た時にやりがいを感じます。その姿が見たくて、今日も、明日も、その先もずっと頑張っていけるのです。

就労支援員のやりがい



永山 牧子

するため、支援員がさまざまなフォローを継続しています。

Aさんのケースでは、勤務開始直後に事件が起きました。Aさんは会社に出勤したものの、車から降りることができず、そのまま帰宅してしまったのです。当然、会社の方は困ってしまいました。わらにもすがる思いだったの

いる姿を見届けた後、「ほっ」と安堵（あんど）して帰路に就きました。

その後も、Aさんはどうしても気持ちが悪く不安定になりがちな状態が続きました。支援員が助言や職場訪問を重ねました。本人の頑張りもあって、見事に契約満了となりました。その後は事前に内定を頂いていた観光関連の会社

（いわき市明治団地、アフレッシュいわきサービス管理責任者）